

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-----------------------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 2670600424 | | |
| 法人名 | 有限会社 カスタネット | | |
| 事業所名 | グループホーム カスタネット 1階 さくら | | |
| 所在地 | 〒606-0024 京都府京都市左京区岩倉花園町401 | | |
| 自己評価作成日 | 平成22年11月16日 | 評価結果市町村受理日 | 平成23年2月19日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://kohyo.kyoshakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2670600424&SCD=320 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|------------------------------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター |
| 所在地 | 〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル |
| 訪問調査日 | 平成22年12月9日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当該ホームは、利用者の意思・生活歴を大切に、その人らしい生活を送れるよう支援に努めています。また、利用者が役割を持ち、生き生きと暮らせるように料理や洗濯など取り組んでいます。身体能力の衰えを最小限に抑えられるよう散歩やゲームなどのレクリエーションも行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

新たに2階を増築され2ユニットになった当該ホームは、その人らしい自由な暮らしを理念に掲げ利用者の出来る事を最大限に活かしながらその人らしい生活が送れるように支援されています。やりたい事ができるようにしたり、ホームだけで過ごすことのないように取り組んでいます。リビングに掲示されている当番表では今までの生活も大切にしながら、皆が関わりを持てるように掃除や洗濯、後片付け等その日の当番が掲示されており、利用者は職員と一緒にエプロンを付け包丁を使いながら生き活きと食事作りに取り組んでいます。又、音楽療法や生け花のボランティアに来てもらったり、ホームから開かれる小学校で認知症についての勉強会に「安心サポーター」として参加するなど、地域にも積極的に働きかけているホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 交換を | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 見やすいところに理念を掲げている(ホール横の廊下の壁)。地域の中で暮らすことを意識し、地域密着の意義をふまえた理念を考案中である。 | 職員が毛筆で書かれた理念が各ユニットの入口に掲げられています。「その人らしい」に重点に置き一人ひとりに合わせたケアが出来るように話し合い取り組んでいます。又、今後地域密着としての思いを込めた理念を検討しています。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 散歩の時に近所の住民と話したり、近所の住民のボランティアによる生け花教室もある。 | 自治会に加入し回覧板も回ってきます。自治会長と地域の情報交換等も行い、祭りや敬老会等に参加しています。又、地域住民による生け花や音楽療法のボランティアの来訪があり、近隣の子供達も気軽に遊びに来てくれています。小学校で「安心サポーター」として認知症についての勉強会に参加したり「子供110番の家」の役割もしています。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | まだ事業所主催の地域貢献は行っていないが、職員が認知症サポートリーダーを取得したり、認知症サポーターの養成講座の手伝いを、ボランティアとして参加したことがある。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 地域包括支援センター、老人クラブ、自治会長、民生委員、利用者の家族、利用者代表が参加され、ホームの近況報告、意見交換をしている。今年は避難訓練実施前に、消防署の方にも参加していただいた。 | 家族や自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員、消防署職員、元警察署所長等が参加する運営推進会議を2カ月に1回開催しています。ホーム便りを配布し、行事の説明や今後の予定等を報告しています。避難訓練の議題の時には消防署職員に来てもらう等専門家からの話を聞く事が出来、有意義な場となっています。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 運営推進委員会の報告書を郵送している。 | 区主催の事業所連絡会に参加し情報をもったり、意見交換をしています。又、何でも解らないことや不安な事は電話で相談し、アドバイスを頂いています。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 基本的には身体拘束はしていない。エレベーターが危険なので、玄関前に小児用ドアを設置しているが、利用者の要望に合わせて一時開放し、危険のないよう見守っている。 | 玄関の鍵は施錠せず、エレベーターも自由に使えるようにしています。安全対策の為、2階の階段はゲートを設置していますが、自由に解錠できるようになっており、状況を家族に説明し理解を得ています。又、身体拘束については、職員が外部研修に参加したりホームで勉強会を開き、職員全員が理解しています。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 虐待はあってはならない行為であり、職員同士で気をつけている。 | | |

グループホーム カスタネット(1Fさくら)

| 自己 | 外部 | 交換を | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 外部研修で学習した。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約書及び重要事項説明書の内容を十分に説明している。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 利用者に対しては、声掛けや談話の中で要望を聞いている。家族の意見・要望は、面会の際や、意見箱を通し出来る限りのことを反映させている。 | 毎月利用料を家族に持参してもらう事で、来訪時には必ず意見や要望を聞いています。ホームに来てもらい現状を見てもらう事で安心に繋がるようにしています。又、請求書と一緒に日々の様子を知らせ家族によってはメールでやり取りをしたり、家族が集まる懇親会を年に1度開催し、意見を聞く機会を持っています。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 全員参加する月一度のカンファレンスの場において、スタッフの新たな提案を聞き、様々な意見交換を行っている。 | 毎月、全職員が参加する各ユニットごとのカンファレンスを開催し意見や提案を聞いています。一人ずつ意見を話せるように問いかけています。意見や提案等があればホーム全体で情報を共有し皆で取り組んでいます。又、主任や管理者、リーダーと個別に話をする機会も持っています。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 研修、勉強会にて、同業者同士の交流があり、情報交換も行えている。また、職員の交換研修もある。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 内部・外部研修とも行い、一人ひとりのスキルアップを目指している。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 研修、勉強会にて、同業者同士の交流があり、情報交換も行えている。また、職員の交換研修もある。 | | |

| 自己 | 外部 | 交換を | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 初期においては本人と接する機会を、より多く作るようにし、不安なことや要望に耳を傾け信頼関係づくりに努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 面会時に話し合ったり、要望に耳を傾け関係づくりに努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 状態の変化に応じて支援方法を変え、その都度本人やご家族に伝え話し合っている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 家事レクリエーションを一緒に行い、職員は利用者から教えていただく姿勢も持つようにし、共に教え合う関係を築いている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | お誕生日会等の行事に参加して頂いたり、利用者と家族が外出・外泊することも自由にしている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 訪問者を居室やホールに案内し、利用者と一緒に過ごして頂いている。 | 親戚や友人が気軽にホームを訪ねてくれ、弁当を持参したり、出前を取り居室で一緒に食べることもあります。また今まで行っていた喫茶店に友人と出かける事もあります。希望があれば地域の店に買い物に出かけ、手紙や電話のやり取りも支援しています。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 座席の位置やレクリエーションの内容に気を配り、孤立しないように努めている。 | | |

グループホーム カスタネット(1Fさくら)

| 自己 | 外部 | 交換を | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 今年の死亡退所後、連絡はない。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | センター方式のアセスメント用紙を活用しながら、日々のケアから入居者の希望・意向の把握に努めている。思いが分からない場合でも本人に働きかけて、把握するようにしている。 | 入居前には家族にセンター方式のアセスメントを記入してもらったり、今まで使っていたサービス事業所からの情報や看護サマリー等の情報も得ています。入居後はホーム独自のアセスメントも併用しながら、普段の関わりの中から得た情報をもとに思いや希望の把握をしています。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居時にご家族にセンター方式のアセスメント用紙の生活歴等を記入し頂いている。また、日々の触れ合いの中で入居者本人から聞き出している。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 毎日、朝にバイタル測定などの健康管理、個別記録の記入などを行い、一人ひとりの現状把握に努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | センター方式のアセスメント用紙等を活用している。日々の入居者との関わりの中で思いを把握したり、家族の面会時に要望を尋ねている。そしてカンファレンスで意見交換をした上で作成している。 | 利用者や家族からの希望を取り入れた介護計画を作成しています。毎月全職員参加のもと、カンファレンスを開催し、利用者個々の状況について話し合い、必要があれば見直し、3カ月毎にモニタリング、ADL状況について評価を行い見直しに繋がっています。 | カンファレンスで多くの事を話し合われており、1冊のノートにまとめて記録されています。利用者ごとにまとめた記録の方法を工夫されてはいかがでしょうか。 |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 毎日、個別記録に記入し、職員間で情報を共有している。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 家族が付き添えない場合の通院介助を行っている。 | | |

グループホーム カスタネット(1Fさくら)

| 自己 | 外部 | 交換を | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 音楽療法活動、生け花教室、消防訓練、消防点検など様々な方や機関に協力して頂いている。また、地域のお祭りにも参加している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 月に2回、診療所からの往診がある。医師とは携帯電話にて24時間の医療体制がとれている。 | 今までのかかりつけ医を継続できる事を説明してかかりつけ医を決めています。協力医の往診が月に2回あり24時間連携が取れており、毎週訪問看護の来訪もあり、健康管理がなされ安心して過ごしています。又、利用者に応じて訪問歯科や訪問マッサージも利用できるよう体制となっています。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 週1回訪問看護あり、バイタル測定し、個々の利用者の状態を報告している。また、看護師に来て頂き医療・介護に関する勉強会を行った。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている | お見舞いに行き、経過の把握に努めている。普段から病院と連携を図り、また、家族の意向を優先し入院先を決めている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 早期より、家族と話し合い、方針を共有し、支援している。 | 入居前、家族にホームとしての「看取り介護に関する同意書」を説明し同意をもらっています。また、実際にホームで看取りも行いました。その際には、毎日訪問看護に来てもらい医師や家族と何度も話し合いを重ね希望に応じた支援に取り組みました。又、看取りについての勉強会を行い、24時間医師との連携を取り安心した体制で支援しています。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 何か変化がある時はかかりつけ医、看護師に連絡を取っている。内部研修等で訓練を行っている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回避難訓練を行っている。消防署の方をお呼びし、アドバイス等も頂いている。 | 年に1回、消防署立ち会いのもと、避難訓練をして指導やアドバイスを頂き、ホーム独自でも年に1回、夜間想定で避難訓練を実施しています。自治会長は避難訓練に参加してもらっています。 | 自治会長は避難訓練に参加がありますが、もう1歩進んで消防署が来るときに地域の方にも参加を依頼し、一緒に消火器の使い方や避難訓練を実施したり、地域に何かあればホームが協力できる事を伝えるなど、協力体制を築かれていくことを期待します。 |

| 自己 | 外部 | 交換を | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 職員同士の伝達事項はイニシャルで呼び合っている。個々の意思を尊重した支援を心がけている。 | 新人職員は接遇やマナー研修に参加しています。親しみのある中にも節度をもった対応が出来るように取り組んでいます。又、個人記録には関わりのある別の利用者はイニシャルで記載するなど、プライバシーの確保に努めています。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 言葉や意思に耳を傾ける事や、一対一で過ごす時間を大切に、意思を表示してもらえ関係づくりを心がけている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 気分転換を重視し、レクリエーションや散歩に誘っている。参加は本人の意思に合わせている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 出張理美容の他、希望者には毛染めも行っている。本人らしさや趣向を大切にしている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 献立の希望を聞いたり、個々のスキルに合わせて準備を手伝っていただくようにしている。 | 利用者に希望を聞きながら献立を立て、一緒に買い物に行ったり、食材業者から配達された献立で利用者と一緒に準備や後片付けをしています。利用者皆が携われるように当番表を作成していますが、無理をせず出来る事に取り組んでもらっています。利用者はエプロンを付け包丁も使いながら手際よく準備されています。また、職員も同じテーブルに着き音楽を流し会話を楽しみながら同じ物を頂いています。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 個々の状態に合わせて介助を行い、一日の食事摂取量・水分摂取量を記録・管理している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、個々の状態にあわせ付き添いのもとケアしている。 | | |

グループホーム カスタネット(1Fさくら)

| 自己 | 外部 | 交換を | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄表を利用して定期的に声掛け、誘導している。 | 排泄表を利用しながら個々のパターンを把握し、声かけや誘導をしてトイレで排泄が出来るようにしています。夜間も紙パンツやパッドを使いながら、できるだけおむつを使用しないように支援しています。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 健康管理表の下チェックし、食事・運動を含め、最終的には薬にて対応している。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 本人の意思や体調に合わせて行い、楽しめるように入浴剤を利用している。入浴のない日は足浴も行っている。 | 月曜日から土曜日まで、午後から夕食前位まで入浴時としています。自立されている利用者が多い事で、おおよそ1日置きに利用者のペースで好きな時間帯に、入浴剤等も使用しながらゆっくりと入ってもらっています。拒否傾向の利用者には、職員の誘導の工夫や家族の来訪時に協力を得ながら気持ちよく入れるようにしています。希望があれば、毎日入浴することも可能です。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 足浴や布団をよく干すなど安眠のために環境を整えている。体調が優れないときは臥床を促す。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬局から頂く薬リストでの個々の薬の把握の他、薬剤師による勉強会を開いてもらい、薬への理解を深めている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 自信や喜びを持ってもらえるように、個々の得意なお手伝いや趣向に合った支援を深めている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | お天気が良い日は、散歩に出掛けることが習慣になっている。毎月、季節や行事に合わせた外出支援を企画し、家族にも参加の呼びかけを行っている。 | ドライブに頻繁に出かけたり、天気がいい日には散歩が日課となっています。季節に応じた外出や喫茶店への外出、家族との外食や実家に行かれる等、ホームだけで過ごす事のないように支援しています。 | |

グループホーム カスタネット(1Fさくら)

| 自己 | 外部 | 交換を | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 手元にお小遣いを少し持っていることで安心される方もおられ、他はホームで管理している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 本人の希望があれば、家族に電話しお話ししてもらっている。手紙をかかれる利用者もいる。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節の花を生け、入居者と職員の手作りの作品を飾り、アットホームな雰囲気作りをしている。西日など強い日光が当たる時は、カーテンで対応している。 | 清潔感のあるリビングでは、季節の飾り付けや行事での写真、観葉植物、季節の花等が整理整頓され飾られています。窓から見える景色は季節の紅葉が鮮やかに見え自然と皆が集まる場となっています。又、一人でゆっくりと過ごしたり利用者同士や職員と会話を楽しめるよう、廊下や色々な場所にソファを置いています。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 皆で寛げる場を提供し、自然と集まり個々がゆったり出来る場がある。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 本人、家族との相談のもと、居室づくりをしている。 | 家族や利用者の意向を第一に考え、椅子やテーブル、タンス、テレビ、冷蔵庫等を持ち込み家族の写真や人形等を飾っています。仏壇を持って来られている利用者は、ホームで供える御飯を用意をする等今までの生活と同じように過ごしてもらい居心地のいい居室となっています。又、冬場の就寝の際にはホームからあんかを用意したり家族に働きかけて用意していただいたり、暖かくして休んでもらえるように工夫しています。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 居室の戸に手作りの表札で各々の居室が分かるようにしている。それでも分からなければ、丁寧な説明・誘導を心がけている。 | | |